

東北大学災害科学国際研究所 『生きる力』市民運動化プロジェクト

## 「みんなの防災手帳」発表

～被災者の声を聴き、自治体情報と連動した、初の“実践的防災手帳”～  
防災減災対策から、発災後の迅速な復旧・復興につながる実践的手帳

東北大学災害科学国際研究所(略称 IRIDeS、所長:平川新)では、社会連携オフィス特定プロジェクトとして、「『生きる力』市民運動化プロジェクト」を2013年1月に立ち上げ、プロジェクトの成果として「みんなの防災手帳」を制作しました。

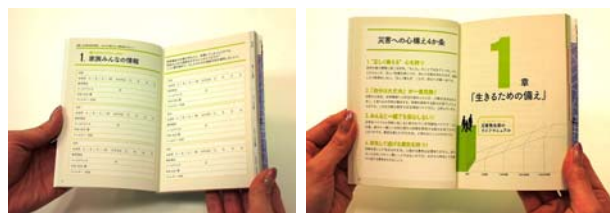
この手帳は、東日本大震災をはじめさまざまな自然災害の研究成果を活かしながら、IRIDeSのミッションである「実践的防災学」の理念を形にし、災害意識の啓発を行うとともに、発災後の迅速な復旧復興につながる実践的なツールです。被災者の生の声を聴きそれを活かした内容は、いざという時にきっと役に立つ家族のルールや情報が書き込める、まさに一家に一冊、無くてはならない「手帳」です。

「みんなの防災手帳」は7章から構成され、そのうち6章は汎用性の高い防災減災対策情報を盛り込み、最後の章は各自治体のオリジナルの地域情報を組み入れて完成される形態です。その自治体独自の情報があることで、住民には自分にとっての関心事となり、発災時には行政の業務サポートにもなる、正に“使える”手帳です。

この「みんなの防災手帳」を全国に先駆け、宮城県多賀城市が平成25年度に導入し、市内全世帯約25,000世帯に、本年秋に配布する予定です。

IRIDeS「『生きる力』市民運動化プロジェクト」では、各自治体のオリジナル情報の監修も行います。

全国の各自治体さまに是非とも導入いただき、防災減災対策のひとつとしてご活用ください。



「みんなの防災手帳」に関するお問い合わせ

東北大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔 助教 まで  
連絡先:e-mail: [ikiru2013@irides.tohoku.ac.jp](mailto:ikiru2013@irides.tohoku.ac.jp)

電話: 022-795-7515

## ■「みんなの防災手帳」について

### 【実践的手帳としての特徴】

- ◎その1 いま必要な情報が引き出せるように、発災時から復旧・復興までを「被災時間軸」で編集
- ◎その2 被災時に瞬時に次の行動を選択できるように、文章は簡潔に「140文字」以内を目安とする
- ◎その3 被災時の具体的な行動指針を提示するために「動詞」で語りかける
- ◎その4 被災者同士の共感と実践的教訓を伝えるために、東日本大震災の被災者の「生声」を採用

### 【概要】

タイトル:みんなの防災手帳 ～〇〇版～ (〇には導入いただいた自治体名が入ります)

体裁 :A6サイズ、4色、汎用部分120ページに加え、各自治体オリジナル部分

構成 :

序章	我が家の防災手帳	～みんなで話し合って書き留めておこう～
1章	発災前	生きるための備え ～災害を知り、災害に備えよう～
2章	発災～10時間	命を守るために ～もしもの時の行動マニュアル～
3章	10～100時間	生きのびるために ～被災生活はここから始まる～
4章	100～1000時間	生きぬくために ～被災生活をおくる知恵～
5章	1000～10000時間	よりよく生きるために ～生活を再建しよう～
6章	各自治体情報	

## ■多賀城市の導入について

### 【背景】

東日本大震災で多賀城市内では、188名の尊い命が失われ、11,000棟をも超える家屋が被害を受け、また、工場地帯の工場群も壊滅的な状況でした。

この震災で得た教訓や知見をしっかりと活かし、災害による被害を最小化する「減災対策」を進め、「現地再建」のまちづくりによって早期復興を目指していくのが多賀城市の復興の方針です。

柱となる取組は ①被害を最小化する多重防御

②減災技術の集積促進

③“生きる力”の醸成 (防災・減災教育の充実強化) の3つです。

これらの取り組みを通じて、減災都市 多賀城 を目指していきます。

「みんなの防災手帳」は“生きる力”を育む、自助、共助の力を醸成するためのツールとして制作し、今後活用していきます。

### 【オリジナル地域情報】

- ① 多賀城市の津波ハザードマップ
- ② 大雨時の雨水浸水ハザードマップ
- ③ 大規模避難所や一時避難所マップ
- ④ 復旧・復興の手続き関係の対応窓口一覧 (予定)

## 参考資料

### ■東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)<sup>イリディイス</sup> について

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、2012年4月新たな研究組織「災害科学国際研究所」を設立しました。本研究所は、東北大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力しながら、自然災害科学に関する世界最先端の研究を推進する機関です。

東日本大震災の経験と教訓を踏まえた上で、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることを目指しています。このことを通じて、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目標としています。

高い志と強い危機意識をもった、文科系から理科系まで7部門36分野の研究者がこの研究所に結集し、さまざまな視点から災害科学の研究を推進していきます。防災科学研究拠点に関わった多くの研究者が、災害科学国際研究所に専任教員または兼務教員・研究協力教員として所属しています。

### ■『「生きる力市民運動化」プロジェクト』とは

日本は世界でも有数の「自然災害大国」であり、日本人は長らくその災害と共存してきましたし、これからもその必要に迫られています。そのために必要な態度は、災害に正面から向き合い、「正しく脅えること」です。自然災害の脅威を正しく理解して、過度に恐れたり絶望的にならないこと、逆に無視したり軽視しない、自分だけは大丈夫だと楽観視もしないことが大切です。

自然災害の脅威を科学的知識として理解し、それに対する事前の備えをおこなうことが必要です。そしていざという時に、生きぬくための正しい判断と行動ができる知力・気力・体力・コミュニケーション能力を高める。この能力こそが、“災害と共存して「生きる力」”であると考えます。

自然災害と正しく向き合い「生きる力」を育むことの重要性を国民一人ひとりに認識させる啓発活動を推進し、「生きる力」を身につけるための象徴的なアクションプランや啓発ツールを開発し普及することで、全国民を巻き込む運動として展開してまいります。

### ■「生きる力」市民運動化プロジェクトメンバー ※「みんなの防災手帳」の監修者

#### ◎プロジェクトリーダー

今村文彦（東北大学災害科学国際研究所 副所長・教授）※

#### ◎ プロジェクトメンバー

邑本俊亮（東北大学災害科学国際研究所 教授）

杉浦元亮（東北大学加齢科学研究所 准教授、災害科学国際研究所兼任）

阿部恒之（東北大学大学院文学研究科 教授）

佐藤翔輔（東北大学災害科学国際研究所 助教）※

保田真理（東北大学災害科学国際研究所 助手）※

### 【みんなの防災手帳】監修者プロフィール

**今村文彦**（いまむら・ふみひこ）

山梨県生まれ。東北大学災害科学国際研究所副所長、教授。専門は津波工学および海岸工学。工学博士。学生時代から津波の災害対策に関心を寄せ、東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター教授を経て、津波工学の最先端の研究・教育と地域の防災力の向上に幅広く貢献している。自然災害学会前会長、内閣府中央防災会議専門調査会委員など各種委員も務めている。

**佐藤翔輔**（さとう・しょうすけ）

新潟県生まれ。東北大学災害科学国際研究所助教。専門は災害情報、災害社会。博士(情報学)。2004年に7.13新潟水害と中越地震を体験。その後、大学院(京都大学防災研究所)に進学し、防災・減災に関する研究に従事。日本学術振興会特別研究員、東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター助教を経て現職。災害に関する情報や社会に関する研究のほか、東日本大震災の記録・保存を行うアーカイブプロジェクトの活動(みちのく震録伝)にも取り組んでいる。石巻市震災復興計画推進事業アドバイザー、東松島市防災会議委員なども務めている。

**保田真理**（やすだ・まり）

兵庫県生まれ。東北大学災害科学国際研究所助手。防災士。サバメシ(サバイバル飯)や減災風呂敷をはじめとした、防災・減災を実践する活動に従事。東北大学大学院附属災害制御研究センター研究支援員を得て現職。NPO 防災士会みやぎ副理事長を務めている。